

創基150周年・開学75周年記念式典・祝賀会を開催

横

浜国立大学は、2024年に創基150周年・開学75周年を迎えました。

これを記念し、2024年11月9日はまぎんホール ヴィアマーレにおいて、記念式典・祝賀会を開催しました。記念式典では、あべ俊子文部科学大臣（松坂浩史 文部科学戦略官代読）、黒岩祐治神奈川県知事、山中竹春横浜市長（佐藤広毅 横浜市の市長代読）、永田恭

介一般社団法人国立大学協会会長より来賓祝辞をいただきました。

続いて、本学卒業生の辻慎吾様（森ビル株式会社代表取締役社長）をお迎えし、「次の100年も成長し続けるために」と題し、ご講演いただきました。

また、アカペラグループ「夜にワルツ」による学生歌『みはるかす』など5曲の歌唱があり、美しいハーモニーがホールに響き渡りました。



アカペラグループ「夜にワルツ」

教育学部 創基150周年記念事業「みはるかす碑」を建立



みはるかす碑

教

教育学部は1874年に神奈川県内に設置された小学校教員養成所を起源とし、県内唯一の国立大学教員養成系学部として、実践的・先進的な資質・能力を身に付けた教員を養成しています。

1956年、学芸学部、経済学部、工学部の3学部であった頃に誕生した学生歌「みはるかす」は、学生の心のよ

りどころとして親しまれ、半世紀以上にわたり歌い継がれてきました。

教育学部では開学75周年を記念して「みはるかす」に込められた想いを形にし、世代を超えて残し続けていくため「みはるかす碑」を建立しました。

「みはるかす碑」は青山浩之教授が揮毫し、原口健一教授がデザインしています。

社会科学系創立100周年記念式典・記念シンポジウムを開催

経

経済学部、経営学部、大学院国際社会科学府および国際社会科学研究院は、2023年12月に、その前身である横浜高等商業学校が文部省直轄学校として設置された1923年から数えて100周年を迎えることができました。

これを記念し、2024年11月10日

横浜国立大学附属図書館メディア・ホールにおいて、社会科学系創立100周年記念事業として社会科学系創立100周年記念式典と記念シンポジウムを開催しました。

記念シンポジウム「神奈川・横浜と高商・国大の過去現在未来」を開催し、「国大の学生として、教員として」と

いうテーマのもと、溝口周二元副学長、大門正克元副学長、藤田香織弁護士（国際社会科学府研究科法曹実務専攻修了生・神奈川県弁護士会副会長）、国際社会科学研究院石山幸彦教授及び君島美葵子准教授による活発なトークと対話が披露されました。

山本理顕氏の「2024年プリツカー賞」受賞記念特別講演会を開催



講演される山本理顕氏

1 1988年より当時の工学部において、また2007年からは工学研究院において、建築設計の指導をされ、また大学院／建築都市スクールY-GSAで初代校長を務められた、横浜を拠点とする建築家である山本理顕氏が

「2024年プリツカー賞」を受賞されました。この受賞を記念し、本学では特別記念講演会およびお祝い会を2024年6月7日に開催しました。プリツカー賞とは、世界的に権威のある建築界におけるノーベル賞といわれており、山本氏は50人目の受賞となりますが、このうち9人が日本人の受賞であり、かつ本学関係者として西沢立衛教授、妹島和世名誉教授に続く3人目の受賞です。講演会当日は、700名近い聴衆に向けて、「^{しきいろん}閼論」をテーマにご講演いただきました。

日本の地域社会における住宅、コミュニティのあり方を問うべく、山本氏は、世界の集落調査を原点として、住宅における私的領域と公的領域のあいだにある空間の構成原理である「閼」について、大学院

Y-GSAにおいても「地域社会圏」として研究されました。

建築家としての数々の建築プロジェクト、「閼論」の研究を通じた社会に対するメッセージが高く評価され、山本氏はプリツカー財団から「2024年プリツカー賞」を、そして本学からは名誉教授、名誉博士号の称号が付与されました。



野外音楽堂での受賞のお祝い

中西準子名誉教授が文化勲章を受章

本 学の環境科学研究センター、環境情報研究院で教授を務められ、名誉教授である中西準子先生が2024年度の文化勲章を受章されました。

中西先生は、環境リスク研究の先駆者として環境リスク評価やリスク管理の手法を提案・確立し、多くの研究成果をあげると

ともに、今日に至るまでこの分野の学術的発展と社会的普及に著しい貢献をされています。

中西先生の業績は高く評価されており、これまで2010年に文化功労者として選ばれた他にも、2013年に瑞宝重光章を受章、そして2021年に日本学士院会員に選ばれています。



©小栗三江子

中西準子名誉教授

台風に関する国際ワークショップ「IWTRC2024」を開催



IWTRC2024

日本初の台風専門研究機関、横浜国立大学 総合学術高等研究院 台風科学技術研究センターは、台風に関する第2回国際ワークショップ【IWTRC 2024】(International Workshop of the Typhoon Science and Technology Research Center 2024)を2024年11月27日～28日に開催しました。

本ワークショップでは、台風研究の世界的権威を海外より3名(デビッド・ノーラン教授

(ミュンヘン大学)、ジョニー・チャン教授(香港大学)、ロジャー・スミス教授(マイアミ大学))招き特別講演を行うとともに、世界19カ国から集まった台風研究者や研究者を目指す学生が発表を行いました。現地参加者は131名(海外から47名)を数え、台風に関する最新研究の発表や研究者間の交流を通じ、より一層の台風研究向上を目指すとともに台風科学技術の発展と国際研究協力の促進を図りました。

羽沢横浜国大駅前にサテライト施設「YNU BASE HAZAWA」を設置

羽

沢横浜国大駅周辺におけるまちづくりの推進を図り、2024年10月1日に羽沢横浜国大駅前リビオタワー商業施設HAZAAR内に、サテライト施設「YNU BASE HAZAWA」(ベースハザワ)を設置いたしました。本学の有する多様な学術知・実践知を駆使した分野連携及び多様なステークホルダー(自治体、産業界、学校、市民等)と連携し、多角的に、社会・地域課題を解決していくための研究及び活動またはこれらを地域に発信する拠点として、地域の発展に貢献してまいります。



左:YNU BASE HAZAWA 内装 右:羽沢横浜国大駅前リビオタワー外観

YNU BASE HAZAWA

文部科学省「数理・データサイエンス・AI教育プログラム(応用基礎レベル)」に認定されました



MDASH 数理・データサイエンス・AI
Advanced Literacy 教育プログラム認定制度
Approved Program for Mathematics,
Data science and AI Smart Higher Education,
designated by the Gov of Japan
応用基礎レベル

本

学の数理・データサイエンス・AI教育プログラムである「YOKOHAMA MDAプログラム(応用基礎レベル)」が、2024年8月27日付で、文部科学省の「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度(応用基礎レベル)」に認定されました。

横浜国立大学では、今後のデジタル社会の基礎知識である「数理・データサイエ

ス・AI」を、すべての学生が身に付けておくべき素養と位置づけ、2021年度からすべての学部生が受講可能なYOKOHAMA MDA(Y-MDA)プログラム(リテラシーレベル)を実施しています。さらに2023年度からは、リテラシーレベルで学んだ基礎知識をもとに、自らの専門分野に数理・データサイエンス・AIを活用するための大局的な視点を獲得するY-MDA(応用基礎レベル)を開始しま

した。応用基礎レベルも、所属学部専門分野にかかわらず、すべての学生が受講可能なプログラムとなっています。そして、数理・データサイエンス・AIの応用基礎的な技術の理解をさらに深めるとともに、これらを活用して課題を解決するための実践的な能力を育成します。

本学の研究情報発信の取り組み紹介

SHIFT!YNU

オープンサイエンス推進

津村 明子 研究推進機構

准教授 / リサーチ・アドミニストレーター (URA)

TSUMURA Akiko

研究で得られたデータや知見を広く共有し、学術の発展や研究の透明性・信頼性を高める「オープンサイエンス」の動きが拡大しています。この流れを受け、大学では学術誌に掲載された論文を無償で閲覧できる「オープンアクセス(OA)」が推進されています。

本学では、研究推進機構の研究IR担当URAが附属図書館と連携し、OA化の啓発活動や経費支援を行い、2018年にOA方針を策定しました。さらに、横浜国立大学基金を活用したOA化支援事業や、複数の出

版社との転換契約(雑誌購読料とOA化費用の一括契約)も行っています。

2024年度には、国の「オープンアクセス加速化事業」に採択され、専任URAを図書館に配置し、研究データ管理の支援や、学術誌の信頼度情報の提供など、取り組みを強化しています。

今後も、支援ツールの講習会開催や広報との連携を進めるなど研究推進の各取り組みと連動して、オープンサイエンス推進を通じた学術研究の発展と社会還元拡大に努めていきます。

AIによる証券取引に対する規制や監査役実務の研究に取り組んでいる芳賀良教授と、水域生態系を中心に微生物の生態や物質循環における機能の研究を行っている鏡味麻衣子教授をご紹介します。

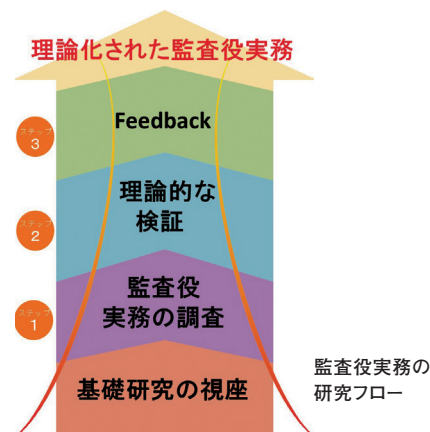
AI時代における証券取引規制と監査役実務

大学院国際社会科学研究院 芳賀 良 教授

私の研究対象は、①AIによる証券取引に対する規制の研究と、②監査役実務の研究とに大別することができます。まず、AIによる証券取引に対する規制の研究についてです。科学技術の進展により、100万分の1秒という短時間で証券に関する売買注文の発注や取消しが可能となっています。つまり、人間の知覚を超える速度で発注とその取消しを高頻度に行う取引(High Frequency Trading)を行うことができます。そして、AI技術により、発注と取消しの判断も人間の個別の意思決定を必要としない段階に差し掛かっています。他方、証券取引規制は、人間の意思決定を前提に規制されています。上記

のような科学技術の進展が証券取引規制に与える影響を分析し、あるべき法的規制の方向性を探っています。

次に、監査役実務の研究についてです。監査役実務とは、実際の監査のみならず、監査役が監査に至るまでに行う様々な活動を包含する概念です。監査役の活動を理論的に解明し、実務にフィードバックすることを目的とします。これは、理論と実務を架橋する法科大学院教育のレガシィを引き継ぐ研究でもあります。基礎研究に基づいて、現在の実務(私も上場会社の監査役経験があります)を検証し、理論化することが研究の柱となります(図を参照)。今後、AIを利用した監査手法が浸透し、現場で行われている監査役



実務にも影響を及ぼすことが想定されます。科学技術により影響を受ける監査役実務を理論の視点から分析して、次世代の監査役に引き継ぐことがこの研究の目標です。



HAGA Ryo
大学院国際社会科学研究院
研究分野: 商法

泳ぐカビが地球を救う!?

大学院環境情報研究院 鏡味 麻衣子 教授

水の中には泳ぐことのできるキノコの仲間、ツボカビが存在します。ツボカビは好みの餌を泳いで探索し、餌を見つけるとその上に付着しツボを作ります(図1)。この小さなツボカビが地球を救う働きをしている可能性があります。

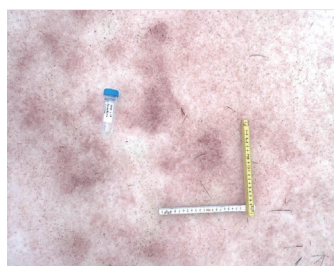
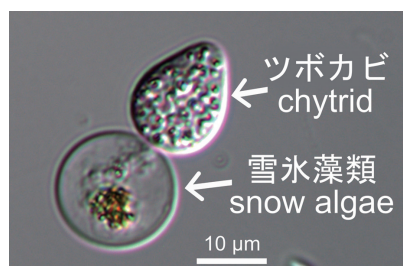
例えば、アオコ・赤潮など水質悪化の原因である有毒有害藻類を、ツボカビは数日で死滅させることができます。さらに、そのツボカビをミジンコは好んで食べ成長することができるため、有毒藻類が間接的に食

物網を支えることになります。このツボカビを介した物質経路を私の名前(Maiko)と菌類学(Mycology)とかけMycoloopと命名しました。

雪山・氷河では、ツボカビは雪氷藻類に寄生しています(図1)。白い雪や氷は本来、太陽光を跳ね返し地球を冷やす効果がありますが、雪氷藻類の繁殖により色がつくと太陽光を吸収しむしろ地球を温めてしまいます(図2)。ツボカビが雪氷藻類に寄生し減らすことができれば、雪や氷が本来持つ

地球の冷却効果を取り戻せると期待されています。

一方、深海で見つかったツボカビはマリンスノーに付着しています。マリンスノーはプランクトンの遺骸などで構成される有機物の塊で、雪のように海中で降り注ぎ、CO₂を大気から海底へ運ぶ役割を担っています。ツボカビがマリンスノーの形成を促しているのであれば、CO₂の海中貯留、ひいてはカーボンニュートラルに貢献している可能性があります。これからもツボカビが生態系において果たす多様な役割を解明し、地球環境問題の解決の糸口を探っていきます。



左/図1: ツボカビ
右/図2: 赤雪



KAGAMI Maiko
大学院環境情報研究院
研究分野: 生態学、環境学

世界なぎなた選手権大会において 中村優太さん(環境情報学府)が 男子団体競技にて優勝、演技競技にて準優勝

2024年7月13日に開催された第8回世界なぎなた選手権大会において、環境情報学府 博士課程前期2年 中村優太さんが日本代表として出場し、世界14カ国のうち、試合競技男子団体の部で優勝、演技競技しかけ応じの部で準優勝を

果たしました。

4年に一度開催される世界選手権の日本代表選手は、これまでの国内大会での成績や予選会での結果を踏まえて選出され、中村さんは今回が初めての出場となりました。



中村優太さん(環境情報学府)

「EGOK」(eセーリング学生王者決定戦)において ヨット部主将古川悠航さんが個人の部で優勝、団体の部でも3連覇を達成

セーリングの学生日本一をかけてオンラインで競う「EGOK」(eセーリング学生王者決定戦)が2024年8月に開催されました。

個人の部は8月9日に実施され60人が参加、団体の部(1チーム3人)は8月16日に実施され16チーム(48人)が参加しました。この大会は2020年から開催されており、今年、横浜国立大学ヨット部は個人の部に10人、団体の部に3チームが出場し、個人の部では主将の古川さんが、団体の部では横国大Aチームが優勝しました。団体の部では三連覇を達成しました。

eセーリングの画面



梅原出学長と受賞者の皆さん

【最優秀賞】

理工学府・化学生命系理工学専攻 飯島瑞稀
「高機能性新規皮膚モデルの開発」

【優秀賞】

理工学府・化学生命系理工学専攻 JAIN MEHAK
「Experimental and CFD analysis for the evaluation of power consumption and Metzner-Otto constant for non-Newtonian fluids with different impeller geometries」

理工学府・化学生命系理工学専攻 杉本結花
「表皮 / 免疫細胞共培養システムによる皮膚アレルギー性評価法の開発」

国際社会科学府・経営学専攻 山本華
「組織成員のインクルージョン知覚に関するメカニズムの解明」

第一回 YNU WIN 賞の 授賞式を開催

2025年1月27日に、第一回 YNU WIN 賞の授賞式を行いました。

この賞は、本学の女子学生の博士課程後期進学者の研究を奨励し、もって若手女性研究者の活躍に寄与することを目的として、今年度から創設されました。今年度は、最優秀賞1名、優秀賞3名の計4名が選出されました。



横浜国立大学 創基150周年・開学75周年 記念募金事業 ご支援のお願い

横浜国立大学は2024年に、創基150周年・開学75周年を迎えました。創基150周年を次の世紀に向けた発展の起点とし、「知の統合型大学として」世界水準の研究大学を目指し、地域と世界の未来を創るため、「横浜国立大学 創基150周年・開学75周年基金」を設立しました。横浜国立大学へのご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

募金事業の3つのテーマ

1. 世界水準の研究力で安心安全な社会を実現する

世界水準の研究力により、地球規模の課題を解決し、安心安全な未来を創ります。

2. 新たなまちづくりと未来創生に貢献する

共創の舞台で地域・社会の課題を解決し、新たなまちづくりと未来創生に貢献します。

3. 学生の意欲と熱意に応える

世界で活躍する優れた人材を養成し、またスポーツに、学業に本気で取り組む学生の意欲と熱意に応えます。

【募集期間】2023年4月～2028年3月31日

【目標額】総額 5億円

【周年記念募金事業】

- ①横浜国立大学 創基150周年・開学75周年記念事業
(YNU新湘南共創キャンパスの創設・台風科学技術研究センター支援・学生支援)
- ②教育学部創基150周年記念事業
- ③社会科学系創立100周年記念事業

【募集金額】個人／1口1万円 団体・法人／1口10万円

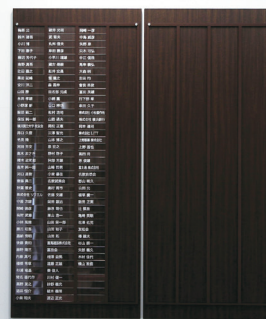
※以上の金額にてご寄附のお願いをさせていただいておりますが、金額に関わらず、ありがたくご寄附を頂戴いたします。

【ご寄附の方法】横浜国立大学基金 WEB サイトからクレジットカードやネットバンキング、払込取扱票等にてご寄附いただけます。

体育施設の改修(フットサル場)



横浜国立大学
創基150周年・開学75周年記念基金



【寄附受付の状況】

1,735件／
235,032,099円

(2025年2月末日現在)

たくさんのご寄附に感謝いたします。

個人として20万円以上、法人・団体として100万円以上のご寄附を賜りました方を対象に、ご芳名を刻銘し、末永く顕彰させていただきます。

横浜国立大学 卒業生・基金担当

E-mail : ynu.kikin@ynu.ac.jp

TEL : 045-339-4443

(月～金 9:00～17:00)

記念募金事業の詳細はこちらから▶



卒業生・修了生の皆さまへ データ登録のお願い

本学では卒業生との連携を深めることを目的として、卒業生・修了生の方々に連絡先、就職(進学)先等のウェブによるデータ登録をお願いしています。登録データの使用内容は以下のとおりとなります。

1. 大学最新情報案内のメールマガジンの配信(月1回程度)※希望者のみ
2. 本学ウェブサイトや広報誌等の卒業生インタビューのお願い
3. 大学、校友会、同窓会からの各種お知らせの送付

本趣旨と使用内容をご理解の上、ご賛同いただける場合は、ご登録をお願いします。

登録
方法

パソコンより下記ページにアクセスしてください。

詳しくはこちら

横浜国大ウェブサイト → 「卒業生」 → 「卒業生・修了生データ登録」



第20回 横浜国立大学横国 Day (ホームカミングデー)



2025年秋頃 開催予定

開催日程や内容等、詳しくは決定次第こちらの横国 Dayウェブサイトにてお知らせいたします。



https://www.ynu.ac.jp/about/project/yokokokuday/index.html